

品川支部

平成29年12月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
TEL 3442-7075

12月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

支部おつとめ総会開催 各教会でもイベントの季節

支部のおつとめ総会が十月二十九日、本品分教会で催されました。雨の中、又各直属教会でのイベントが重なる中、大勢の方に参加頂き、支部内お近くの教友が楽しく懇談出来ました。

このほかにも十一月二十三日は、支部内日本橋大教会では千人規模の、恒例の「うをみ会」で何人もの支部内の方も、沢山の模擬店、出し物で楽しみました。

教区では、新しくこの地に来られた方々が、気軽に近くの教会に足を運んでいただけるよう、模索しているところでもありますので、こういったイベント情報を今後は出来るだけ出していきたいと心掛けます。



日本橋大教会
「うをみ会」会場

十一月二十三日

☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

十二月九日(土)午後六時〜都南にて

・教区ひのきしん

今回は都南組です。十二月五日と九日の

二回ですので、よろしくお願いいたします

・神名流し

一日午前十時から大井町西口ロータリーにて

・在宅センターひのきしん

今月は有りませんのでお間違いの無い様

・支部例会

十二月今月の例会は納めの例会で、日本橋大教会で行われます。大教会長中臺先生の当該教会長お話の後、忘年会を兼ねた食事を用意しております。是非どなたでもご参加ください (詳細 二頁に掲載)

☆教務支庁からのお知らせ

◇基礎講座東京会場

十二月十日は、本部講師上田禮子先生(浪華分教会長婦人)の講座です

◇神殿瓦葺き替え工事と布教の家建築工事

布教の家建て替えは、いろいろな条件から最終的に、現在ある位置に近く門を入れて左側に位置が決定され、来年四月四日の記念祭後、まず瓦の葺き替え工事から行い、百十周年に間に合うよう工事を進めるとの事です。

婦人会だより

教区で十月三十一日に行われた母親講座には四百名を超える方が集まり、お話を聞いて頂きました。

支部からは今年も年間通してひのきしんを初め、イベントの協力ありがとうございますとのメッセージがありました。

社友会から

十月二十五日、本部東礼拝場で一時から「感謝の集い」が行われました。いつもご協力頂いております手配りひのきしん者に対して、ネックウォーマー(マフラー)の記念品が贈られました。

時報は昭和五年、図書館設立の折、夕づとめの時、夕ブロードを配布した時から始まり翌年道友社から発行されるようになったと聞かせて頂きました。

時報の支払いは郵便局で、

一年間、料金割引になる、自動振り込みのキャンペーン期間が今月で終了になります。まだの方は、是非活用してください。

今年は十七日号で
終了です

拠点教会	3日号	10日号	17日号
日本橋	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り
都 南	手配り	手配り	手配り
三ツ木	手配り	手配り	手配り
水豊田	手配り	手配り	手配り

品川支部例会

平成29年12月21日 (木)

11時開始

場所 日本橋大教会

(品川区東五反田5-25-1)

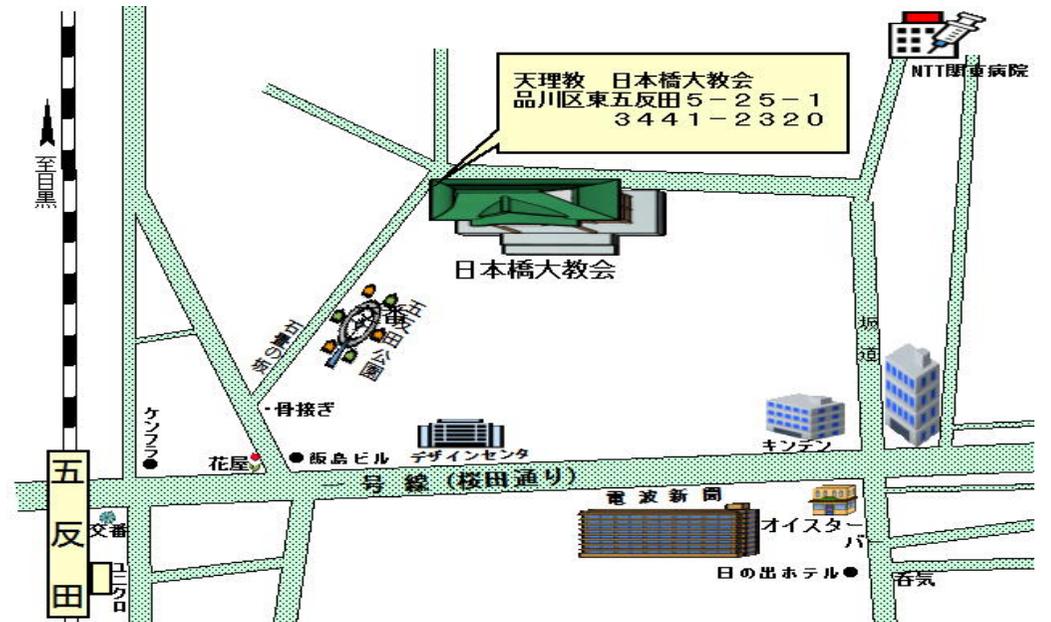
内容 おつとめ よろづよ八首 12下り目

東京教区、支部連絡事項

当該日本橋大教会長様 挨拶

昼食は忘年会を兼ね用意頂いてます

*各教会の方のほか、どなたでも (白足袋ハッピー着用)



教会紹介

本品分教会元一日



本品分教会の初代会長、中澤秀次郎は文久三年一月七日、山梨県甲府に生まれ土地の小学校を卒業後、師について漢学や算数などを学んだ後、明治二十年四月、25歳の時上京、当時の東京府下南葛飾群大畑村(現在の墨田区八広六丁目、八丁目あたりになる)に種菓子屋を営んでいた。秀次郎の姉が子癩を病んでおり、これが鮮やかに助かった。その時の状況が東本大教会史に記されている。

初夏の某日。よしの足は向島から大畑に向かった。ここに藤棚のある掛茶屋があった。ここが東本初代会長の東京での「日々がわたすけ」の第一号の場所である。初代会長はここで一休みして出かけた。そのときうつかりして手回りの元を入れた風呂敷包みを床几に置き忘れた。たまたま通りかかった里見七五郎が

「忘れ物だよ」と叫んで追いかけた。「いったい何処に行くのだよ。そつちへ行つたつて家などありやしない。お前さんは昨日も来たらしいがいったい何をしに来るのかね」「私は病人や困つた人があつたら助けさせてもらいたいと思つて来ています。」「それじゃ、うちの親戚には腰の立たない子がいる」ということで、里見の兄は町田家へ連れて行つた。この子は百日ガウスを被つたように頭に瘡蓋ができており、その上、腰が立たなかつた。初代会長の三日のお願いで、この子は鮮やかに立った。母親は喜んでお礼の印しをと、さし出した。初代会長は「私はお礼はいりません。そのお金でお菓子でも買つて近所の人たちを呼んで下さい。その方々に神様のお話を聞いて頂きたいと思つています。」「そこで町田の妻が熱心に周りを誘い、集まつた人々に初代会長は熱烈な教理を説き流した。この時に本品の初代秀次郎がいたのです。本品の初代は明治三十一年四月二十一日初席を運び、入信後三年、明治三十三年五月に

は、すでに東本出張所の庶務係を拝命しています。明治三十三年十月二十五日おさづけの理拝戴、明治三十五年三月教導職を頂かれ、同四十三年四月には、荏原群南品川町に本品宣教所設立の願を出され、6月には御本部、八月には地方庁の許可を頂かれたのです。大正四年二月十七日、五十三才で出直された。それは二代彦太郎が別科十三期に在学中のことであつた。その後大正五年四月一日、本品宣教所二代所となる。

大正六年九月三十日、東京湾一帯の大津波によつて教堂を流し、辛じてお宮だけを持つと逃げる事が出来た。現在地、品川大井元芝町八七十番地は、東本初代会長が随分御心配くだされ、自ら歩いて探してくだされたのである。

三畳、八畳、家賃八円五十銭の借地から始まつたのです。昭和九年九月二十三日。本品支教会に昇格、昭和十二年九月二十五日、建坪六十七・四十一坪の檜造瓦葺の堂々たる教堂が完成する。昭和二十年三月九日、す。

大東亜戦争の空襲により、東本大教会が教堂を残して焼失せし折、当時本品分教会は相次ぐ空襲下にあつても幸い戦禍に見舞れず、この時の教堂の畳六十畳余り、建具等を大教会にリヤカー数台で運び大教会長様はじめ、皆様の御不自由な生活にお使い頂いた。昭和四十三年五月二十六日、中澤理本品分教会三代会長の理のお許しを頂く。

平成六年十一月三日、境内地二百九十九・八七mの神殿をふしん、神殿落成奉告祭を執行する。

平成十二年九月二十六日、中澤光郎本品分教会四代会長の理のお許しを頂く。

平成二十三年三月二十日、大教会長様の御臨席を頂き、本品分教会創立百周年を執行する。

ただいまは来年、立教百八十年十二月一日に迎える、東本大教会創立百二十周年記念祭に向けて夫婦共々、御恩報じに勤めさせていただいております。